

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で話し合い、事業所の理念を作成し、地域密着したサービスを行うように、笑顔で暮らせるケアを目指している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の基ずいたケアができるように、職員一人一人が、自分のケアを見つめ直し、目標を持ち、笑顔でケアができるように日々取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	広報誌を作成し、事業所の取り組みや職員紹介をしたり、地域の子供会や祭り、運動会に参加している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の子供会と交流を持つことで、顔みしりの関係になり、外出時に会うと声かけたりしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	広報誌を作成し、地域や交番、近隣のグループホームに持参し配布している。地域の掃除や祭り、運動会などに参加している。施設の行事に地域の子供会にも参加してもらい、盛大に開催できた。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者等の暮らしに役立つことについて話し合いや取り組みはできていない。子ども会とは、バーベキュー大会で交流をもち、その時には、地域の高齢者の方と話をしている。	○	運営推進会議を通じて、地域の高齢者の方の暮らしに役立つことの話し合いをしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を職員全員で話し合い、評価を活かして、入居者の日々の生活が笑顔で暮らせるように毎日ミーティングを行い、個別に計画し支援している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回第4月曜日に開催している。施設の報告や取り組んでいる内容なども話、意見をもらうようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当職員や地域包括支援センター職員とも困ったことなど電話や窓口で相談しながら助言をもらいながらサービスの質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度などについて職員と勉強会を行うことができていない。	○	今後勉強会を計画していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修会に職員を参加させ、報告会で勉強を行ったりしている。何が虐待になるのか常に職員同志で確認をするようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	面会時には、必ず職員から声かけし、家族からの話を聞くようにしていきたい。何でも相談できる雰囲気づくりを心かけたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入社してから段階的には、研修はなかなかできていないが、新入職員が入ったときには、認知症やリスクマネジメントなど勉強会を行った。</p>	<p>○</p> <p>研修が計画できていないので、次年度は計画していきたい。現在「私の入りたいG.H」と課題をだし、自分のケアを振り返り、私の入りたいG.Hになるようにはどのようにすればよいか考えている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>認知症グループホーム連絡協議会での勉強会などには参加している。近隣のグループホームとは、交流を持ち、遊びに行ったりしている。広報誌の配布も行っている。またバーベキュー大会に、参加の呼びかけを行い、参加してもらった。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員のストレスや悩みを聞いたりできる時間を作るようにしている。休憩室を作り、ゆっくり休憩できるような声かけしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格取得に向けた支援を行い、取得後は、本人の意向を重視しながら、職場で活かせるように支援している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前や事前に生活状態を把握するように努め、入居者によっては、可能であれば、デイサービスを利用しながら本人が求めていることや不安を理解するように努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族が求めているものを理解し、事業所としては、どのような対応ができるか、事前に話し合いをしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思いや状況を確認しながら、何が必要か見極めて、できる限りの対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所時に安心して生活できるように、入居者や家族と相談しながら、できることできないことを見極めて、ケアにあたるようにしている。馴染みの美容院や近所の理容院を利用したりしている。キリスト教の礼拝や音楽の発声練習など今まで行っていた生活習慣を尊重している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も共に生活しているように、食事づくり、掃除・洗濯など一緒におこなっている。時には、入居者の方からわからないことを教えてもらっている。また本人が音楽の教師だったこともあり、家族と共に、コンサートを開催したこともある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、常に状況を報告している。困ったことがあれば、その都度相談し、解決している。春には花見・夏にはバーベキュー・秋には紅葉見学を計画し、家族と一緒に参加してもらっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係を理解し、本人や家族の思いを理解し、支援している。また毎月家族へ入居者の様子を手紙に書いたり、行事の報告を新聞で行い配布している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの馴染みの美容院へ出かけたり、毎日キリスト教の礼拝を行ったり、発声練習が行ったりできるように一人一人の生活習慣を大切にしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は、入居者同士の関係を日々把握しながら支援している。入居者同士で、できないことを手伝ったりして、お互いに支えあっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設へ移られても、家族からの相談ができることを、退所時に説明し、関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、入居者自身や家族の思いや、希望を聞きながら、介護計画を立てている。困難な事が起こった時や、定期的に入居者の思いを確認して検討している。意思の疎通が難しい時にも、日々の表情や行動から汲み取っていくように常に話し合い支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、今までの生活のことを聞いたりしてできるだけ馴染みの暮らし方に近くなるようにしている。新聞を個人で頼んで毎日読んでいる方や朝起きてすぐ掃除をされる方などその人のペースに合わせて支援している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人に合った過ごし方ができるように、出来ることは何なのかを把握しながら、日々の生活を支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に、入居者と家族の思いを聞き、計画を立てている。モニタリングやミーティングを行い、情報交換し、介護計画に活かしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとにモニタリングをし、見直しをしている。また変化があった場合は、その都度行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日一人一人の暮らしの様子や言葉、状態の変化を記録している。職員には、勤務前には、記録を確認して勤務に入るようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者、家族の状況に応じて、通院、往診、美容院への送迎をしている。また入居者の方が重度化した場合などのために、看取りの確認書を作成し、今現在の入居者、家族の意向を聞き、その意向に沿ってケアができるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者の方が安心して地域で暮らしていけるように、警察や地域の方と意見交換ができる運営推進会議を利用している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者、家族の希望に応じて、馴染みの美容院へ行ったり、訪問理美容サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加して、情報交換を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけの医院へ受診している。家族が受診をされることもあるが、ほとんど職員が同行している。主治医とは、できるだけ連携を持ち適切な医療を受けられる様に支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医に相談し、連携をとりながら、個別に支援できるような体制をとっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師の資格を有しているため、常に入居者の健康管理や医療面での相談や助言、対応をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージを極力防ぐために、家族とも情報交換しながら、職員とも対応可能かどうか相談しながら早期退院できるよう支援している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの確認書を作成している。今の思いを記入し確認している。また重度化した場合や病状の変化があった場合は、その都度家族と話し合い、方針を決めている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医とは、常に連携を持ち、入居の方が日々よりよく暮らせるようにチームとして取り組んでいる。また病状が変化した場合のために、主治医と家族と相談し、吸引器を購入し、急な変化にも対応できるように準備している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所する前には、必ず家族とともにホームの見学をしてもらい、入所を決めてもらっている。また可能であれば、入居まで、併設のデイサービスをお部屋が開くまで利用して、徐々に職員や施設に馴染むように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一人一人が、日々の関わりの中で、言動に気を配ったり、入居者のプライバシーを損ねる事のないように、勉強会やミーティングを行い話し合っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者が希望を言いやすいような雰囲気づくりに心懸けている。また入居者を受け持ち制にしている、個別に本人の思いを聞いたり、一人一人が、自分で決められる場面を作れるように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、その人の生活ペースに合わせて支援している。一人一人の生活パターンを把握して、無理じいのないようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	洋服などの着替えは、基本的に本人が決めている。おかしな服装だったり、決めれない時には、一緒に考えている。理美容についても入居者の希望を聞いたり、馴染みの美容院や地域の理髪店と一緒にでかけている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備を一緒に行っている。一人一人ができることが何なのかを把握して、食材を切る方、盛りつける方、食器を洗う方、味見する方などそれぞれに役割を持てるように支援している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒される方はいない。喫煙される方はおられ、希望時にたばこを渡し、決まった場所で喫煙している。ライターは事務所で預かっている。誕生日には、希望メニューを聞き、誕生会を開催している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者の排泄パターンを把握して、声かけが必要な方には、声かけし誘導している。病状の変化により、オムツや紙パンツが必要かどうか話し合いながら、話し合いながら導入している。また病状がよくなれば、随時変更している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日入れるように支援している。夕食後に入浴を行う方もあられる。その方の意向を聞きながら支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入所前の生活習慣に合わせて、休息、睡眠がとれるように支援している。できるだけ日中の活動を促し、生活のリズムを整えるように努めている。その日の体調に合わせてゆっくり休息ができるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を把握し、その人に何ができるのか、したいことは何なのかを検討しながら支援している。食事の準備をする人、盛りつける人、後片付け、洗濯物干し、たたみする人、掃除をする人などそれぞれ役割を持ちながら生活できるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理をしている方もいる。外出した際に支払いされる方もおられ、お金を持っているだけで安心している方もおられる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月1回は、外出できるように計画している。また個々に希望がある時には、外出できるように支援している。最近では、本屋さんや図書館、スーパーに買い物など外出している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	出来るだけ入居者の方の希望するところへ外出できるように支援している。昨年は、出雲大社の大遷宮へ行った。また、洋服が欲しいと希望があり、洋服を購入に外出した。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればかけている。誕生日や母の日・父の日に贈り物が届いた時には、電話をかけたり、つながらなかった時には、手紙を書けるように支援している。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居者の大切な方が、気軽に面会に来られるように雰囲気作りに心懸けている。また来られてから、居心地よく過ごせるように、自室でお茶を用意し、話をしてもらっている。ほとんど毎日面会に来られる家族もおられる。一緒にお茶をしたりしている。	
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束によって入居者が受ける身体的、精神的弊害について、勉強会を行うようにしている。ミーティングで、職員の行動、言動が、身体拘束になっていないか日々確認するようにしている。	○ 定期的に勉強会が行われる様に計画していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ防犯上鍵をかけ、センサーを使用している。日中は、使用していない。常に入居者のその日の状態を把握し、見守りを行えるようにしている。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が常に危機管理を持つようにしている。入居者の日々の生活の様子をプライバシーを配慮しながら、把握して見守りをしている。夜間は時間ごとに見回りを行っている。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険と思われる物は、職員や家族と話し合いながら、保管方法を決めている。また病状によって、配慮すべき物が出た場合も、その都度話し合いながら決めている。トイレの芳香剤や洗剤など、入居者によっては、場所を変えている。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止にむけ、ミーティングを行っている。一度夜間行方不明になられた方があり、その後事故防止に向けて反省と検討をした。一人一人の状態を常に把握しておくようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	月1回全体会として勉強会を行っている。またマニュアルを作成して、職員に周知している。	○	新しい職員が入社してから行われていない。9月に救急蘇生について消防署より講習の計画をしている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、定期的に非難訓練を行っている。	○	地域の方の協力を得ながら、災害時に対する取り組みを定期的に行っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人一人に起こりうるリスクについて把握し、常に病状を管理者が家族に話している。その際に入居者にとって何がよい支援なのか話、家族の意向を聞くようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を把握し、少しでも食欲低下や、顔色等の変化が見られた時には、速やかに看護師(管理者)に報告し、指示を仰ぎ、状況の記録をしている。必要があれば往診依頼や、受診をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容、薬効などのファイルを作成し、職員がいつでも閲覧できるようにしている。薬は、看護師が管理し、職員が手渡しして、服薬確認をおこなっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人一人の排便状況を把握し、できるだけ自然排便を促せるように、食事内容などを工夫するようにしている。また毎日体操などおこない体を動かすようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけはしている。寝る前の歯磨き、義歯の洗浄は行うようにしている。できない方は介助している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を毎日チェックしている。時間ごとに水分補給の声かけをし、摂取できるようにしている。夜間もその人に合った水分補給の方法を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防のマニュアルを作成している。感染症が流行している時は、常に職員に周知し、職員が予防できるようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、台所の水回りの清潔、衛生を保つように、週1回は、消毒漂白などおこなうようにしている。食材も畑の野菜を使ったり、できるだけ新鮮な野菜を使うようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に花を置いたり、明るく玄関にしようと工夫している。	○	花などの管理ができていないため、植物担当という係りをつくり、今後花や観葉植物を置き、季節に応じた管理ができるようにしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は、入居者が居心地のよい場所になるように工夫している。また部屋によっては西日が当たる場所があり、すだれを使用している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間では、気の合った入居者同士で話をしたり、テレビを見たりできるように支援している。テレビを大きいサイズに交換した。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた箆箆や水屋などを持ってきてもらっている。本人が使い慣れた物を使えるようにしている。夫婦部屋があるが、2人に使いやすいようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度や湿度の調節は、職員の感覚でなく、入居者の合わせた状態にするようにしている。「笑」のホール、「友」の居室には、空気清浄を設置している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体機能の変化や状態に応じて、生活環境の改善が必要か検討している。障害になるようなものがないかどうか確認しながら配置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人のわかる力を職員が理解し、わからないことは、わかるように工夫するようにしている。居室やトイレがわからない時は、家族に了解をとり、居室やトイレ前に表示してわかるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭は、デイサービスの利用者と一緒に日向ぼっこしたり、シャボン玉で遊んだりしている。敷地内には、畑があり収穫を一緒に行ったりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)